

ソントーン・ワイルダー＋鶴屋南北

小林志郎＋小熊みどり

『わが町、ニューハンプシャー州の町と亀戸と深川と』

登場人物

四谷左門

同 お岩（四谷左門の娘、伊右衛門の妻になる）

同 お袖（与茂七の妻となる）

佐藤長助（登場せず、二五万石、五人扶持・中小姓勘定方）

同 るい（佐藤長助の妻）

同 与茂七（長助の長男、お袖の夫）

同 小夜（長女）

お色または茶屋内儀お政（按摩宅悦の女房）

舞台監督

同 助手 1

同 助手 2

同 助手 3

菓売りの藤八

豆腐売りの女（千種）

納豆売りに女（お京）

山鹿素行先生の高弟の平賀源藏氏の息女、お彩

赤穂のキャンペーン・ガールズ

田宮伊右衛門（登場せず）

僧浄念

客席の女性

死者の中の女性

死者の中の男性

キャピュレット夫人

ジュリエット

乳母

オリガ

マーシャ

イリーナ

アマンダ

ローラ

巫女

小仏小兵（登場せず・お花の夫）

お花（小兵の妻）

この劇に登場する人々の家族構成

① 佐藤与茂七の家族（南北とワイルダーと小林の町）

父・長助（登場せず）

妻・るい

息子・与茂七

娘・小夜

② 四谷左門の家族（南北とワイルダーと小林の町）

父・左門

妻・

娘・お岩

娘・お袖

③ キヤピユレットの家族（シェイクスピアの町）

キヤピユレット（登場せず）

キヤピユレット夫人

ジュリエット

乳母

④ アンドレイ・セルゲーヴィチ・ブローゾロフの家族（チエイホフの町）

オリガ

マーシャ

イリーナ

⑤ ウイングフィールドの家族（テネシー・ウィリアムズの町）

アマンダ・ウイングフィールド

ローラ・ウイングフィールド

ジム・ウイングフィールド（登場せず）

第一幕 「日常生活、紅扇のドラマ」

舞台は地舞台と、高さと大きさの違うプラットフォームから構成されている。舞台は五つのエリアに分割され、原則一つのエリアが一つの家族のスペースとして使用される。それ以外には舞台装置はない。

舞台監督が舞台の二重やその他の道具をチェックしている。音楽が流れている。いろいろな音楽や効果音がアットランダムに流れ、音源をチェックしているようだ。照明もチェックをしている。ピアニストが登場し、曲を演奏し始める。舞台監督はピアニストのところへ行き、しばらく演奏を聴いていたが、やおら舞台前へ出てくる。

舞台監督　この劇のタイトルは『わが町、ニューハンプシャー州の町と亀戸と深川と』とい
います。オリジナルのソーントン・ワイルダーが書いた『わが町』と鶴屋南北が書いた『東

海道四谷怪談』を一つにまとめてしまおうと、二人の戯作者が挑戦しました。スタッフとキヤストは、パンフレットに記載されています。

私たちがわが町を持っているように、有名な戯曲や台本の中の登場人物もわが町を持っています。四谷左門と妻と、娘のお岩とお袖には、兵庫県赤穂市が本来のわが町でした。佐藤与茂七のわが町も同じように赤穂市でした。

さてロミオとジュリエットにとってのわが町はイタリアのヴェローナでした。古代ローマの円形競技場や中世の町並みが残っている街で、2000年にユネスコの世界遺産に登録されました。ヴェローナの政治経済を仕切る二人のボス、キャピュレットとモンタギューは敵対し、覇を競っていました。キャピュレットの娘・ジュリエットとモンタギューの息子・ロミオは禁断の恋をしてしまったのです。

チェーホフの『三人姉妹』のブローゾフ家のオリガ、マーシャ、イリーナのわが町は、ヴォスクレセンスクという首都モスクワから南東へ88km行ったモスクワ川沿いにある町です。三人の姉妹の美しい夢が俗悪な現実のなかでしぼんでいきます。いつか明るい未来が到来するに違いないと語る姉妹は、この芝居の第三幕を予言しているのです。

テネシー・ウィリアムズの『ガラスの動物園』の、姉ローラと文学青年の弟トムと母親アマンダが住んでいるわが町は、アメリカ中西部のセントルイスです。足の悪い姉は、引きこもり、ガラスの動物の世話をし、父親が残したふるいレコード音楽を聴いて孤独に耐えています。トムは母親とけんかをして家を出てしまいます。彼は自分のわが町をさがしてアメリ

カの各地をさまよいますが、姉ローラの面影を消し去ることはできません。

ではいろいろなわが町とそこに住む人たちを見ていきましょう。どこの国とか、どこの町とか、いつの時代であるかなど気にしないでください。もし神様の時計とメジャーを使って測ることができれば、一年は瞬きをする間の時間かもしれないし、『東海道四谷怪談』のわが町のアドレスは太陽系地球県日本市だったり、ワイルダーの『わが町』とウィリアムズの『ガラスの動物園』の住所は地球県アメリカ市、『ロミオとジュリエット』は地球県イタリア市、『二人姉妹』は地球県ロシア市なのです。

さて舞台手前の右手、つまり舞台上手には四谷左門の家族が住んでいます。説明的な家具は一切ありません。

舞台下手前には、佐藤与茂七の家があります。父親は長助といい、赤穂藩の身分の低い役人です。息子の与茂七はまだ十代で、大変な美少年です。彼はよく少女と見間違えられ、男性からも女性からも迫られることがあります。

舞台奥上手にはアンドレイ・セルゲーヴィチ・ブローゾロフの三人の姉妹、オリガ、マリーシャ、イリーナが住む家があります。

舞台奥中央にキャピュレット家があります。私たちに見えるのはジュリエットの部屋で、乳母がジュリエットの支度を手伝っています。

舞台奥下手に、ローラとトムと母親・アマンダが住む陽の当たらない朽ちかけたアパートがあります。ローラが一人でガラス細工の一角獣と対話しています。

ざっと、家の配置はお分かりになりましたか。これから私たちが注目していくのは、四谷左門と佐藤長助の両方の家族です。ここは江戸から数百キロ離れた赤穂の町はずれです。武士が住む、長屋に近い一軒家が並んでいます。両方の家が舞台の上で隣り合っていますが、実際は五〇〇メートルほど離れ、その中間を千種川が流れています。第一幕の終わりに与茂七とお袖が会うのは、この川にかけられた橋の上なのです。

では、これから五つの家の人たちが行動を開始します。

四谷左門の一家が朝食を終えようとしています。中級の武士の格式と、堅実な暮らしがうかがわれる住まいです。

赤穂は九月のある日。

四谷左門の家。お膳を並べて家族三人が座っている。

左門　今日は、いつものようにお城で經理の仕事をする事になっている。そちたち二

人は母上の看病をしかと頼みましたよ。

お岩　はい、お父様。お願いがごさいます。お帰りになられましたら、前から言われて

いる田宮伊右衛門様との結納のことについて、お話ししとうございます。

左門　おお、その気になったか。

お岩　そのことで悩んでおります。

左門 田宮氏は、押し出しがよく、初見の方には立派な人物に映るが、どうも本心がつかめない。そちを嫁にほしいと道場の師範・八幡氏からお話を頂いたとき、素晴らしいご縁と思いながら、その点だけが気がかりであつてな。

お袖 お姉さま、気が進まないなら断って頂くのがいいんじゃない。

左門 これお袖、余計なことを言うんじゃない。ここはお岩の気持ちを尊重して決めることにしよう。では、夕食後に。

お岩とお袖 はい。行つてらっしゃいませ。

次のわが町は、アメリカ中西部のミズーリ州セントルイス。トムの姉ローラがガラスの動物と対話をしている。古いレコード音楽が流れている。

舞台監督 アマンダの夫、つまりローラとトムの父親は、ある日、会社をやめると遠い外国を目ざし、軽やかに躍るような足どりで、町を出ていきました。それは唾然とするほど見事な蒸発でした。彼のたった一枚の絵葉書には、二つの言葉しか書いてありませんでした。「ハロー、グッドバイ」。もちろんアドレスはありませんでした。

さて、アマンダがかつつかかとかかとを鳴らし怒って帰ってきます。彼女はアメリカ西部で生まれ、伝統的な教養を身に着けた婦人です。

舞台監督　こんにちは、奥さん。

アマンダ　あら、お元気ですか。ここのところ天候が不順ですからお気を付けください。あたし、愛国婦人会へ行ってきましたの。ちよっと娘に用があつて帰ってきましたので、これで失礼します。(そそくさと別れて、家の玄関をはいる)

アマンダ　今日はね、あんたも知っているように、愛国婦人会であたしが役員に就任するところになっていた。ところがその前に、お前が通っているビジネス・スクールに立ち寄ったんだよ、先生にお会いしてあんたが風邪を引いたことをお知らせし、ついでにどのくらいの成績をあげているか伺おうと思つてね。

ローラ　ああ……

アマンダ　タイプライターの先生のところ行つて、あんたの母親ですつて自己紹介をしたんだよ。ウイングフィールドという学生はうちにはいませんつて先生はおっしゃった。「いいえ」つてあたしは言ったよ、「娘のローラはこの一月半、一日も欠かさず通っていました！」つて。先生は一寸失礼というと、出席簿を持っていらした。そこには間違はなくあんたの名前が乗っていた。だが、名前の後に欠席の印がずっと並んでいた。

あたしはがっくりして立っていられないほどだった！ 五十ドルの授業料も、将来の計画も……あんたにかけたあたしの夢も希望もみんな消えてしまった、あつという間に消えてしまった。

再び四谷左門の家。

お袖　お姉さま、自分の気持ちを大事になさってください。お姉さまならいくらでもすてきな男性が現れます。

お岩　お袖、暖かい言葉ありがとうございます。でもね、すぐ分かるお世辞を言っはいけません。あたしは、お袖みたいに明るい性格ではありません。自分でもいやになるほど地味で、引っ込み思案です。ですからそんなわたしを、田宮伊右衛門様がいかなるお気持ちで妻にしたいと申されたか、是非聞いてみたいと思っているのよ。

お袖　お姉さま、ごめんなさい。

お岩　いいのよ。それよりお前が落とした扇を拾ってください。殿方とはその後お会いしてないの？

お袖　ああ、おつちよこちよいの方ね。実は、拾ってくださいった方は、頭をまるめたお坊さまだったの。しかも五〇過ぎの偉いお坊様だったの。なんでも高野山から見えていたのですって。

キャピュレットの家の一室。キャピュレット夫人が登場する。

舞台監督

キャピュレットは、世界中の父親とまったく同じです。もうすぐ、一四才にな

るジュリエットのしあわせを願って生きています。キャピュレットはこう言います。「夜も昼も、寝ても覚めても、一人でいようと他人といようと、わしの苦労は娘にいい婿をとということだ。」そうして苦労した結果、パリスという青年貴族を見つけます。

さて、このシーンでは、ジュリエットはまだロミオを知りません。今夜のパーティーでジュリエットはロミオと出会い、瞬時に愛するようになるのです。

キャピュレット夫人　ばあや、娘はどこ？　ここに呼んでおくれ。

舞台監督　（乳母の役になり）はい。ジュリエットさまあ！　お母様がお呼びです。

ジュリエットはい、お母様。なんのご用？

キャピュレット夫人　ばあや、ちよつと席をはずしておくれ。いえ、ばあや、やっぱりいておくれ、娘はやがて十四。

舞台監督　たしかにお嬢様はやがて十四。

キャピュレット夫人　結婚話です、私がここに話しに来たのは。ねえ、ジュリエット、結婚するということをおまえはどうお思い？

ジュリエットまだ夢にも考えたことありませんわ。

キャピュレット夫人　それなら今からでも結婚のことを考えておくれ。このヴェローナにはもつと若い良家の娘ですでに母親となった人もいます。私も今のおまえの年ごろで、おまえを出産していたの。簡単に言うと、パリス様がぜひおまえをお嫁様にとおっしゃるのだよ。

舞台監督　ま、あの方は、お嬢様、それこそ、蠟人形みたいに完全無欠の方。

キャピュレット夫人　ヴェローナ中さがしてもあのような紳士はいらっしゃいません。

佐藤与茂七の家。長押なげしに檜がかけられている。居間で、与茂七が
雨傘の骨に紙を貼っている。母親が着物を縫っている。

与茂七　母上、あまり精を込めて無理なさらないでください。

母親　与茂七こそ、ほどほどにしないさい。朝は槍の稽古、夜はバンネーク先生のところで外国語を習う毎日でしょう。お父様がお亡くなりになった後、おまえが頑張ってくれるからわたしたちもご飯をいただける幸せ。くれぐれも身体に気をつけてください。

与茂七　はい、母上。ところで小夜はどこへ行ったのですか。

母親　小夜は、仕立て上げた着物を届けに、川向の片桐様のお屋敷まで行きました。そろそろ帰ってくるでしょう。

与茂七　そうですか。小夜も十四になりました。そろそろ嫁いでもいい年ですよ。小夜の嫁入り支度ぐらいはわたしが責任持ちます。そういつておいてください。

母親　二、三お話があるのだけど、なかなか本人がその気にならないので。いま、着物を届けに行った片桐様の次男様が小夜をお嫁さんには是非と言ってくださっているのですか……

与茂七　是非とおっしゃるなら、いい話ではないですか。

母親　　先方はお父様の十倍以上の禄高をおもらいの高級官僚ですから、もらってやると
いう態度がどうも気になってね。小夜は感性の鋭い子だから、最初から乗り気じゃないの。
今日だって、片桐様から着物を小夜に届けさせるようにとのきついご注文……
与茂七　　おお、かわいいそうな小夜。

四谷左門の家。

お袖　　あのおっちょこちよいは、武士の家の男の子とは思えないほど、そりや美男子な
の。

お岩　　さきほど高野山のお坊さまだっていったでしょう？

お袖　　お姉さま、ごめんなさい。嘘をつく気はなかったの。ただあの方の姿を思い浮か
べるだけで、このあたりがキュンキュンとなって、放っておくと涙があふれて、大声で泣き
出したくなるの。それで、気持ちを隠すために、お坊さまだっておはなししたの……

お岩　　まあ、お袖ちゃんらしくなく、純情なのね。

お袖　　あの方は、女の子のように繊細で、ノーブルで、きりりとしているの。歌舞伎役
者で言ったら、いないわ、あれほどきりりとした美男子^{びなんし}は。お姉さんにぜひ会わせたいわ。
お岩　　そうなの。一度お目にかかりたいわ。

お袖　　赤穂に、あんな若鮎^{わかぢ}みたいに優美なお姿をなさっていて、オランダ語が話せて、

剣術が強くて、しかも親孝行な益荒男ますらおがいるなんて信じられないの、お姉さま。

お岩　あなた、重病だわね！

ブローゾロフ家の居間。オリガ、マーシヤ、イリーナがよりそって
たたずむ。

マーシヤ　ああ、軍楽が鳴っているわ！　みんながここから立って行くわ。わたしたちだけが取り残されて。生きていかなければ……。生きていかなければ……。

イリーナ　（頭をオリガの胸にもたせかけて）時が来れば、わかるでしょうね。小学校で子供たちを教えて、自分の一生を、それを必要としている人びとのために捧げるわ……。

オリガ　（二人の妹たちを抱きしめる）軍楽があんなに高らかに、あんなに楽しそうに鳴っている。

ああ、いとしい妹たち、生きていきましようよ！　もう少ししたら、なんのためにわたしたちは生きているのか、なんのために苦しんでいるのかがわかるような気がするわ……。

佐藤与茂七の家。母親と与茂七は前のシーンの仕事を続けている。そこへ娘・小夜が帰ってくる。

小夜　　ただいま帰りました。

母親　　早かったね。どうだった、片桐様の奥様は？

小夜　　たいへんご機嫌麗しくて、「お父上の御病気はいかかがですか」とたずねられました。また「お兄様は赤穂一番の美少年で、しかも学問を広く修められ、藩校一の切れ者とうたわれています。うちの息子はどうして頭が悪いのでしょうか。そしてホホホホとお笑いになってから、でもうちの若様は気持ちが悪く、人の悪口を言わないし、困っている人がいれはすぐ手を貸してあげる、それはいい子なのよ。小夜さん、お嫁入りの支度は片桐家がすべて用意いたしますから、ご心配なさらないでね。佐藤家と片桐家では天と地ほど格差がありますから、そちらでご用意くださっても見栄えがしないものであると、無駄になる心配があります。」

与茂七　　なに、そこまで申されたのか？

小夜　　（下を向いて肩を震わせている）

与茂七　　母上、口惜しゅうございます！　父上がご病気のため、家計が逼迫する現実はだれの目にも明らかです。しかし家計が苦しいことと、禄高の違いをもって家柄まで下に見られては……。わたくしが刻苦勉励し、きつと片桐家を見返してやります。

母親　　わたくしも口惜しい限りです。昔はお父上も片桐様たちと同じ禄高を頂戴していましたが、いつのまにか現代的というか、行動力があるというか、お殿様の側近として活躍なさり、ご出世なさいました。でも、与茂七や、小夜が嫌なら、このお話はお断りします。

与茂七　西洋の国でも、齒の浮くような世辞、何遍も下げる頭、半歩下がってかしく態度も、みんな商品になる時代になってしまったとバンネーク先生が嘆いていらっしやいました。

小夜　お母様、あたし、片桐家へ嫁ぎます！

ウイングフィールド家。母親アマンダと娘のローラは氷ついたように動かないでいたが……。

アマンダ　ローラ、専門学校に通うふりをして出かけていたとき、あんたどこへ行っていたの？

ローラ　ただ歩きまわっていたわ。

アマンダ　嘘おっしやい。

ローラ　ほんとよ。ただ歩いていただけ。

アマンダ　歩いていた？　冬のさなかに？　あんな薄いコートで？　歩いてどこに行ったのよ、ローラ？

ローラ　いろんなところ……たいていは公園に。かあさん。学校へはもどれなかったんだもの。だって……吐いてしまったから……教室の床に。

アマンダ　毎日朝七時半から夕方五時まで、ただ公園を歩きまわっていたっていうの？

ローラ それほどつらくはなかったわ。建物の中に入ってあったまりもしたし。

アマンダ 建物って？

ローラ 美術館とか、動物園の小鳥の家とか。ペンギンには毎日会いに行ってたわ！

アマンダ そんなことまでしてあたしをだまそうとしたんだね。

ローラ ちがうの。母さんは、がっかりするととってもつらそうな顔をなさるでしょう。

美術館にあるマリア様のような顔を。

アマンダ ええ？

ローラ あたしにはそれが耐えられなかったのよ。

シーンが四谷左門の家となる。お岩とお袖のふたりが縁側に腰掛けている。

お岩 きれいだこと、見事だわよ。

お袖 ねえ、あそこが居間よ。

お袖 (語り続ける。夢見ているように、それでいて現実感を持って。) そう、寝間は

白一色にしたいの。壁はもちろん白。天井は白にできないわね。それから花模様の付いた白い掛布団と敷布団。白い紙をはった無地の二枚折屏風。白い絹で周りを囲った几帳を置くの。それから白の襖、白の雪見障子……ウーン、寝間の床は畳の青さを生かした自然の感じの方がい

いかしら。寝室の外廊下に鉢植えの南天を置きたいの。殺風景な廊下が南天の一鉢で引き締まって見えるでしょう。それから、南天の隣に真っ白な手拭いをかけておくの。

お岩 そう、きれいでしょね。手入れが大変ね。

お袖 いいの。何もかも白。それから、台所は淡い緑にしようかしら。ーそう、青磁色にしよう。それともうんと明るい山吹色か少し渋い辛子色にしようかしら。そう、お椀や器はすべて京漆器のように真っ赤にするの。お皿は何から何まで伊万里焼にして、食器棚はお椀や磁器の色の配合を際立たせたいの。床と壁は一尺幅の檜の板を張るの。木地の色をいかけた淡い真珠色に磨き上げたいわ。そして、かまどや水瓶は聚楽壁のように赤色、そう紅殻（べんがら）色がいいわ。天井は細かい寄木作りで、天井の中央に鳳凰の絵が描いてあるの。次は――窓。窓は二つほしいわ。流しの上の一つ。もう一つは洗い場の上に。大きな連子窓にしたいわ。――それから次の間との境に暖簾がほしいわ。横に長い水引暖簾。色は何でもいいの、好みを言えば琉球の紅型（びんがた）で、波を描いたものもいいわ。（間）それから寢所は、茄子紺と明るい瑠璃色。

お岩 （苦笑しながら）お袖殿、寢所は白にしたんじゃなくって。

お袖 お風呂は萌黄色がいいわ。何もかも萌黄色。

佐藤与茂七の家。小夜が母親の肩をもんでやっている。与茂七が風呂敷包みを持って立ち上がる。

小夜 母上、こりこりがだいぶ取れました。

母親 ほんとうに長い時間、ありがとうございます。おかげで楽になりました。

小夜 こったときはいつでももんであげますからね。

母親 ありがとうございます。

与茂七 それでは母上、バンネーク先生のところへオランダ語の勉強に行ってまいります。

母親 よく精が出るのう。くれぐれも気を付けて行ってくるのですよ。

与茂七 はい。

小夜 行つてらっしゃい。

与茂七 行つてくる。小夜、片桐のことは気にする必要がないぞ。わたくしがきちんと話をつけるからな。では、母上、行ってまいります。

舞台監督が下手から登場し、与茂七と道路の真ん中で出会う。

舞台監督 これから、オランダ語の勉強ですか？

与茂七 はい。行つてきます。

舞台監督 トツティーンズ（トットツィンズ）（さようなら）

与茂七　　すごい、オランダ語できるのですね！　ウエルテルステン（おやすみなさい）。ダ
ンク　ユーウェル（ありがとう）

舞台監督　「おやすみなさい、ありがとう」という意味でしょう？

与茂七は退場する。

舞台監督　さて、ドラマを展開する前に、この町についてもうちよつと情報が、言ってみれば文献的知識ってやつがほしいと思います。

そこで朱子学を批判したことから播磨国赤穂藩へお預けの身となられた山鹿素行先生が藩の若者を教育するためにご尽力くださっています。先生の高弟の一人、平賀源蔵氏のご息女お彩様をお願いして、赤穂の歴史についてかいつまんでお話してもらおうことにしました。お彩様、お見えですか？

矢絰たすきの着付けに、襷たすき巻、そして薙刀なぎなたと巻紙をたずさえて上手から登場する。

舞台監督　お忙しいところようこそいらっしやいました。

先生、どうか要点だけを……なにしろ時間がないものですから。先生に拍手をお願いしま

す。

平賀 彩 赤穂藩の全部または一部はかつて、吉備国きびのくにに属しておりました。吉備国は弥生時代・古墳時代に筑紫・出雲・ヤマト・毛野などと並んで日本列島の制覇をねらう超大国の一つでした。ですから、とうぜん、巨大な古墳文化を持っていました。その力はどこから生まれてきたかと申しますと、吉備国には、優秀な製鉄技術があり、それが強国となる原動力であつたと言つてよいでしょう。

吉備国はヤマトの国と連合して、日本列島の支配・統一に多大な貢献をいたしました。吉備の軍事力・経済力・生産力に脅威を感じたヤマトの国は、あらゆる手をつくして吉備の国力を縮小しよう、削減しようと策略をめぐりました。とうとう、吉備は、備前・備中・備後・美作に四分割され、小規模国家に陥つてしまいました。それだけではありませんよ、みなさん。赤穂藩に該当する地域は、なんということでしょう、播磨国へと移されてしまつたのです。これ以後、旧吉備地域の住民の悲願でもある政治的な統一は現在に至るまで達成されることがなかったのです。なぜか？

舞台監督 先生、どうも時間がありません。赤穂の地理的な特徴についてのみ一言お話しください。

平賀 彩 地理的な特徴についてのみ一言ですか？ 赤穂藩は瀬戸内海沿岸に位置しておりますから、日本の気候区分でいう瀬戸内海式気候に属しています。この気候帯の特徴は一年

間通して晴天の日が多く、実に温暖で静穏な天候に恵まれています。ちなみに十二月から二月までの平均気温は五・一度であり、積雪もほとんどありません

舞台監督 先生、恐縮ですが、産業について一言のみ。

平賀 綾 一言のみ？ 先ほどお話ししたように我が吉備の国には優れた製鉄技術があり、国力の原動力となってきました。さらに忘れてはならないのは、温暖な自然環境が育んだ塩田があります。赤穂の「にがりを含んだ塩」づくりという伝統的な味わいを守り続けています。塩の製法についてわたくしはずっと調査研究してきましたので……

舞台監督 ぜひ伺いたいのですが、この次の機会にゆっくりと拝聴させてください。先生、どうもありがとうございます。客席の皆さんもご高説に感激なさっています。みなさん、感謝の拍手をお願いいたします。

平賀 彩 いやあ、話しが이었습니다。

舞台監督 先生、お帰りはこちらです。

平賀 彩が下手へ退場する。

舞台監督 さて、赤穂の自然と伝統芸能についてお嬢様方にご協力お願いします。すでに皆さんがご存知の四谷家のお袖さん、それから幼馴染のお杉さんです。お二人は歌も踊りも大変上手でいらっしやいます。

お袖とお杉が登場する。

お袖　播磨灘に注ぐ千種川の河口に広がる平野地に、赤穂五万石の城下町が広がっています。おいしい食べ物の代表は、坂越の牡蠣でしょう。温泉好きの方には瀬戸内海に沈む夕日を眺めながら入浴できる赤穂温泉がお薦めです。赤穂御崎温泉街から望める伊和都比売神社は海中に浮かぶ岩礁の上に鎮座されています。航海安全や縁結びの神様としてわたしたち赤穂人の信仰を集めています。

それから千種川の流れは、それは、それは透明で、水底の岩に戯れるアユの稚魚が見えるくらいです。

舞台監督　ところで、客席のみなさんからお袖さんたちに質問がありませんか？

後方の客席の女性　赤穂というと日本人の心とか、結束の強いコミュニティというイメージが強く、哲学する人たちが住んでいる城下町という印象が強いです。もう少し穏やかな側面を表す、伝統的な音楽とか踊りとかがありませんか？

お袖　ちよつと待ってください。(みんなで相談する)　昔、塩を作るときに、人々が仕事をしながら歌った唄があります。「赤穂濱鋤き唄」といいます。この歌をご紹介します、わたくしたちの仕事が終わらせていただきますが、それでよろしいですか？

舞台監督　結構ですとも。よろしいですか？

後方の客席の女性 はい。

ピアノまたはキーボードが用意される。「濱鋤き唄」は尺八、三味線、鉦、太鼓の伴奏で唄われるものである。しかしここでは日常的な感性でアレンジし、ピアノまたはキーボードの伴奏で歌うことにする。

三崎山には 蛇がいるそうなの

(そりや蛇がいるそうなの)

ア大けな蛇やそなの ヨーイヨイ

(ア嘘じゃそなの オモシロヤ)

ヤレノウヒョウタンヤ(アヨイヨイ)

春の日長に 牛追いこんで

(そりや牛追いこんで)

濱鋤き音頭のノーホイホイ

(声がる オモシロヤ)

ヤレノウヒヨウタンヤ（アヨイヨイ）

牛が来たなら後へ寄れ様よ

（そりや後ろへ寄れ様よ）

後へ寄らなきやノーホイホイ

（日が暮れる オモシロヤ）

ヤレノウヒヨウタンヤ（アヨイヨイ）

赤穂岬の名残の松よ

（そりや名残の松よ）

葉越しに見えるはノーホイホイ

（ア小豆島 オモシロヤ）

イヤノウ ヒヨウタンヨ（アヨイヨイ ヨイトヤ）

赤穂よいとこ 浅野の城下

（そりや浅野の城下）

櫓下へとノーホイホイ

(ア汝がつく オモシロヤ)

イヤノウ ヒョウタンヨ (アヨイヨイ ヨイトヤ)

唄い終わって、女性たちは退場する。

ロングフィールドの家。アマンダとローラのシーン。

アマンダ あたしたち、これからの生涯をどうやって過ごすことになるのかね？ ガラスの動物たちが遊び相手？ 職業につくあてはないわね。もうあきらめたんだもの、神経のせいで消化不良を起こすと言って！ 結婚しない女が就職できるだけのものを身につけてないとうなるか。そういうかわいそうな人たちが南部にいたとき大勢見たからね。兄嫁とか妹婿とかの恵んでくれるお情けにすがってやっと生きているオールドミスたち！

あたしたちの将来の生活設計ってそんなものかね？ あんた、だれか好きになったことはないの？

四谷左門の家。お岩とお袖が食器を洗っている。

お岩 早く結婚しなさいとすすめられても、あたしのように踏ん切りのつかない人がい

る。また意中の人がいるのに運命は二人の仲を切り裂く方向へと展開することもある。伊右衛門さんって、どういう人なのだろう？ あたし、幸せになれるのかしら？ 最初はあれほどすすめていた父上がなんとなく乗り気でない。何かあるんだらう？

お袖　ねえ、お姉さま。

お岩　なあに？　あら、こわい顔して。何か悩みがあるの？

お袖　はい、深刻な悩みがあります。

お岩　（そばへ来て座って）では、伺います。

お袖　あたし、きれいですか？

お岩　きれいですかって？　あなたはお姉さんの三倍も四倍もきれいですよ。

お袖　あの、男の人を引き付けるほど美しいですか？

お岩　まあ、そんなことを心配していたの。大丈夫よ、あなたはきれい過ぎて、お姉さんが心配するくらい。

お袖　そうやって、はぐらかすのだもの。お袖にとっては大事な問題なのです。生きるか死ぬかの。

お岩　はぐらかしてはいけません。あなたは十分美しい顔をしています。男の人があなたの美しさにひかれて寄ってくるでしょう。でもね、岩は心配しているのです。あなたはその美しさのせいで苦勞するかもしれないって。夫と一緒に苦勞するのはいいことよ。予想もしない不幸がやってきて、善意を持った人、悪意を持った人があなたの周りに集まって、あなた

をだめにしてしまうのではないかと、それが心配なの。

お袖　ねえ、お姉さん、千種川の大願寺橋へ行かない？

お岩　急にどうしたのよ。

お袖　いい人にめぐり合えますようにってお祈りしに行くの。紅扇をもって。

キャピュレット家の居間。ジュリエットがロミオと別れたばかり。
キャピュレット夫人が登場する。

舞台監督　ジュリエットとパリスの結婚話はあわただしく進展します。ジュリエットとロミオの許されざる恋は止めようがないほど燃え上がります。そのさなか、ロミオは、ジュリエットの母の甥のテイボルトと口論し、殺害してしまいます。

舞台監督　（乳母になって）お嬢様。

ジュリエット（声のみ）　あ、ばあや？

舞台監督　お母様が、この部屋へいらつしやいます。もう朝ですよ。二人とも気を付けて、用心なさいよ。さあ、ロミオ、口づけはそこまで。お帰りなさい。

キャピュレット夫人　（奥で）ねえ、まだ起きているの。いつまでテイボルトの死を悼んで泣くおつもり？

舞台監督　さあ、ロミオ、お帰りなさい。ジュリエット、ロミオの手を放しなさい。お母様

に見つかるわよ。もう、聞き分けのない。キスはそれでおしまい！

ジュリエット（声のみ）

愛しているわ、いとしいロミオ！

舞台監督　二人ともいい加減にしなさい！

ブローゾロフ家の居間。オリガ、マーシャ、イリーナがよりそってたたずむ。

マーシャ　ああ、軍樂が鳴っているわ！　みんながここから立って行くわ。わたしたちだけが取り残されて、生活をまた新しく始めようとしているのだわ。生きていかなければ……。生きていかなければ……。

イリーナ　（頭をオリガの胸にもたせかけて）時が来れば、なにもかもわかるでしょうね。なんのためにこんな苦しみがあるのか。小学校で子供たちを教えて、自分の一生を、それを必要としている人びとのために捧げるわ。まもなく冬になれば、雪が降りつもるでしょうけれど、わたしは働くわ、働くわ……。

オリガ　（二人の妹たちを抱きしめる）軍樂があんなに高らかに、勇ましく鳴っていると、心から生きたいという気になってくるわ！　ああ、いとしい妹たち、わたしたちの人生はただおしまいではないのよ。生きていきましょよ！　軍樂があんなに高らかに、あんなに樂

しそうに鳴っているわ。もう少ししたら、なんのためにわたしたちは生きているのか、なんのために苦しんでいるのかがわかるような気がするわ……。それがわかりさえすればねえ！

千種川にかかる大願寺橋のうえ。舞台監督が登場する。

舞台監督　　ようやくここで、舞台装置らしい橋が出てきます。これは赤穂市千種川に架かる橋の一つで、人々に愛されている大願寺橋です。この橋の上から見ると月は大変美しいと有名です。特に大潮の満潮時に川面に映った月はさざ波の動きに小刻みに上下し、月が水面をかけていくかのように見えるのです。

さあ、橋が飾られました。高さは水面まで四間三尺、約八メートル〇センチ、川幅は三〇間、五十四メートルあります。

おや、向こうから佐藤与茂七がやってきました。バンネーク先生のお宅へ行く途中です。月明りで、書物を読んでいます。こちらからお岩とお袖がやってきました。お袖はお岩の手をぐいぐい引いています。

お袖　　お姉さん、お月様きれいね。

お岩　　ええ、きれい！

お袖　　あたし、紅色の扇を用意してきたの。

お岩　まさか。それをお月様に向かって放るつもり？

お袖　ええ、後ろを向いて川面のお月様に向かって放り、流れて行ってお月様の上に乗れば、必ずいい人が現れるってきいたわ。

お岩　母上もそんなことおっしゃっていただけ……

お袖　そしてお父様と一緒にになったのですって。貧しいけど幸せだって。さあ、お姉さまの分も用意したから。

お岩　恥ずかしいわよ。ほら、あの若いお侍さまがこっちを見ているじゃない。

お袖　平気、平気。(若い武士の人影に気づき、はっとする) ドキドキしてきた。どうしよう？

お岩　お袖さん、しゃんとしなさい。

お袖　(気をとりなおし、口の中でお祈りをする) えーい！(扇を放る。扇は川面を流れ、月の上にかかる。それを見て、お袖はお岩に抱き着く)

与茂七　(扇の流れを見ていたが) お見事！　昼は楽書きして行く水に扇流し、夜は花火の映り、おのずと天も酔えり。

お袖　(気づく) 与茂七様！　ここでお会いするなんて！

与茂七　失礼申した。

お袖　　昼は楽書きして行く水に扇流し、夜は花火の映り……

与茂七は歩き去る。お袖とお岩は抱き合ったまま。お袖の目は彼の姿にくぎ付けになっている。舞台監督の声が非情に響く。

舞台監督

みなさん、これで第一幕の終了です。休憩は五分です。